

# 令和4年度 白川郷学園 理科研究構想

【研究主題】一人一人の学びが加速し、「先を読む力」を発揮する姿を目指して

## 理科部が育てたい「ひとりだち」した人物像

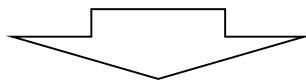
- ・自ら問題を見出し、解決していく中で、新たな問題を見出し、繰り返し自然の事物現象に関わっていく姿
- ・理科の見方・考え方を働かせ、自然の事象・現象についての問題を科学的に解決する姿
- ・一連の学習を振り返り、妥当性を探求する姿

## 研究内容(1)9年間を見通した「先を読む力」の明確化

前期課程		後期課程
3・4年生	5・6年生	7・8・9年生
「比較しながら」「関連付けて」調べる活動を通して、自然の事物・現象を追究していく。	「条件を制御しながら」「多面的に」調べる活動を通して、自然の事物・現象を追究していく。	見通しをもって観察、実験などを行い「規則性・関係性・共通点や相違点・特徴」などを見出して表現する。

## 研究内容(2)児童生徒の多面的な実態把握と手立ての明確化

【日常的な実態把握】	【客観的データの活用】
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ノートの記述 (ロイロノートを活用したデータの蓄積)</li> <li>・単元テスト</li> <li>・毎時間の評価に応じた振り返り (授業の終末の確認テスト、振り返り)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単元テスト(知識・理解、技能、思考表現)</li> <li>・レディネステスト</li> <li>・理科の学習アンケート(数値化したものなど)</li> </ul>



実態に適した児童生徒への手立ての明確化

## 研究内容(3)一人一人の学びが加速する学習活動の工夫

○学ぶ目的や必然を感じ、見通しをもって課題追究する導入の工夫	○試行錯誤を生み出す展開の工夫	○一人一人が学びを自覚し、自分でできた達成感を得られる終末の工夫
<ul style="list-style-type: none"> <li>・既習事項や生活経験を想起せ、予想や考察へとつなげた指導を行う。</li> <li>・児童生徒の関心意欲を高めるために、疑問を生み出すような現象や資料を提示する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・理科の見方・考え方を働かせ、比較、関連付け、条件制御、推論といった科学的な思考を常に意識した指導・助言を行う。</li> <li>・学習過程の工夫(追究の仕方、実験方法の熟考や提案)を行える環境をつくる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時身に付けた学習内容を、他の事象、特に日常や生活と関連付けた指導を行う。</li> <li>・自分の学び方を振り返る活動を仕組む。</li> </ul>